

目次

鎮静に関するよくある質問 x

I章 はじめに

1 目的	2
2 適応の注意	3
1. 対象	3
2. 効果の指標	3
3. 想定される利用対象者	3
4. 個別性の尊重	3
5. 定期的な再検討の必要性	4
6. 対象とする薬剤	4
7. 責任	4
8. 利益相反	4

II章 手引きの要点とフローチャート

1 手引きの要点	8
1. 用語の定義	8
2. 治療抵抗性の苦痛への対応の考え方	8
3. 持続的な鎮静薬の投与を行う要件と適用	9
4. 持続的鎮静の相応性	9
5. 鎮静薬を投与する意図	10
6. 患者・家族の意思	10
7. 医療チームの合意	10
8. 患者の意思確認の過程	10
9. 鎮静薬の選択	11
10. 鎮静薬の投与方法	11
11. 鎮静中の評価とケア	11
2 治療抵抗性の耐えがたい苦痛が疑われた場合の対応についての基本的な考え方のフローチャート	13

III章 定義

1 用語の概念と定義	18
1. 治療抵抗性の苦痛・耐えがたい苦痛	18
2. 鎮静・鎮静薬	18
3. 鎮静の分類	20
① 間欠的鎮静	20
② 調節型鎮静	20
③ 持続的深い鎮静	20
④ まとめ	21
4. その他の定義	23
① 家族	23
② 医療チーム	23

IV章 実践(1)治療抵抗性の苦痛に対する持続的な鎮静薬の投与を行う前に考えるべきこと

1 はじめに	28
2 苦痛に対する緩和ケア	30
1 トータルペインの概念	30
2 痛みに対する緩和ケア	31
1. 概要	31
2. 原因の同定と治療	32
① がん疼痛と、がん患者に併存する非がん性疼痛との区別	33
② 難治性になりやすい痛み	34
③ 原因の治療	34
3. 治療目標の設定	35
4. 苦痛を悪化させている要因の改善を目的とした治療・ケア	35
① 身体的要因	35
② 心理社会的要因	36
5. 医学的治療	36
① 薬物療法	36

② 薬物療法以外の治療	39	⑦ くつろげる環境や方法を提供する	72
6. 治療抵抗性と判断する目安	42	⑧ 医療チームをコーディネートする	72
7. 未解決の課題	42	⑨ 治療抵抗性の苦痛をもつ患者への基盤と なるケア	72
③ 難治性せん妄に対する緩和ケア	45	② スピリチュアルペインに対するケア	74
1. 概要	45	1. スピリチュアルペインとは何か	74
2. 原因の同定と治療	46	2. スピリチュアルペインのアセスメントとケア	74
① 原因の同定	46	3. 治療抵抗性の苦痛をもつ患者に関わる医療者 のケア	79
② 原因の治療	48	4. 未解決の課題	79
3. 治療目標の設定	49	4 間欠的鎮静	81
4. 苦痛を悪化させている要因の改善とケア	49		
① 身体的要因	49		
② 環境的・心理社会的要因	50		
5. 医学的治療	50		
① 薬物療法	50		
6. 治療抵抗性と判断する目安	54		
7. 未解決の課題	54		
④ 呼吸困難に対する緩和ケア	57		
1. 概要	57		
2. 原因の同定と治療	59		
① 原因の同定	59		
② 原因に対する治療	60		
3. 治療目標の設定	60		
4. 苦痛を悪化させている要因の改善とケア	61		
① 身体的要因	61		
② 心理社会的要因	61		
5. 医学的治療	62		
① 薬物療法	62		
② 薬物療法以外の治療	65		
6. 治療抵抗性と判断する目安	66		
7. 未解決の課題	66		
⑤ 苦痛に対する閾値をあげ人生に意味を見出すための基盤となるケア	69		
① 精神的ケア	69		
① 信頼関係を構築する	69		
② 生きる意味・心の穏やかさ・尊厳を強める ケアを行う	70		
③ 現実を把握することをサポートする	71		
④ 情緒的サポートを行う	71		
⑤ おかれた状況や自己に対する認知の変容 を促す	71		
⑥ ソーシャルサポートを強化する	72		
		V章 実践(2)治療抵抗性の苦痛に対する 持続的な鎮静薬の投与	
		① 要件	86
		② 相応性の判断	88
		1. 苦痛の強さの評価の仕方	88
		2. 治療抵抗性の確実さの評価の仕方	89
		3. 予測される生命予後の評価の仕方	89
		4. 精神的苦痛・スピリチュアルペインの鎮静の 対象としての相応性	90
		5. 生命予後が比較的長いと見積られる患者の 痛みが緩和されない時の相応性	90
		③ 意図の確認	93
		④ 患者の意思確認の過程	94
		1. あらかじめ患者の意思を確認することにつ いての考え方	94
		2. 意思決定能力の評価の仕方	95
		3. 意思決定能力がある患者の希望の確認の仕 方	95
		4. 患者に意思決定能力がない場合の対応の仕 方	96
		5. 説明内容	97
		6. 患者と家族の意思が異なる時の考え方	100
		① 患者が明確に持続的鎮静を希望するが家 族が希望しない場合	100
		② 患者が鎮静の情報提供を希望しているが、 家族が患者への情報提供を希望しない場合	101

5 チーム医療	104
1. 医療チームによる判断	104
2. 診療記録への記載	104
6 実際の投与方法と評価・ケア	106
1. 鎮静薬の投与方法	106
2. 鎮静開始直前の患者・家族への配慮	108
3. 鎮静中の継続的な評価	109
4. 鎮静中の患者・家族へのケア	109
5. 水分・栄養の補給などについての考え方	110

VI章 倫理的検討

1. 鎮静の益と害	114
2. 鎮静の倫理的妥当性	114
① 相応性	114
② 医療者の意図	115
③ 患者・家族の意思	115
④ チームによる判断	116
3. まとめ	116

VII章 法的検討

1 総論	120
1. 法的な観点についての検討の経緯	120
2. 法的な観点から検討する意味と刑事（法）的な観点を中心とすること	120
① 法的な許容性について	120
② 許容性の根拠と、許容性に疑念が生ずる事項の提示	120
③ 刑法の基本的な考え方	120
3. 法的な観点からの検討の制約と、行政ガイドラインと倫理的な観点との関係	121
4. 緩和医療行為としての鎮静を対象とする	122
5. 鎮静が法的に許容されることについての複数 の見解	122
① 正当業務行為としての違法性阻却について	122
② 自己決定権の保障と制限、さらに「死の権利」	123
③ 死期の短縮を伴う行為の許容性について	123
6. 総論と各論の架け橋	124
2 各論	125

1 耐えがたい苦痛について、肉体的苦痛のほか、不安・抑うつ、心理・実存的苦痛などの精神的苦痛を含むのか	125
2 予想される生命予後の長さは鎮静の許容要件に影響するのか	127
3 患者が意思表示できる時に、どのような説明内容・説明方法が求められるのか	130
4 患者が意思表示できない時に、推定された患者の意思はどのような意味をもつのか	132

VIII章 背景知識

CQ 1 鎮静はどのように定義されているか	137
CQ 2 鎮静はどのくらいの頻度で行われているか	138
CQ 3 鎮静は治療場所によって頻度が異なるか	141
CQ 4 鎮静の対象となる苦痛は何か	143
CQ 5 鎮静にはどのような薬剤がどのくらいの投与量で用いられるか	148
CQ 6 鎮静の効果はどうか	153
CQ 7 鎮静の安全性はどうか	155
CQ 8 患者・家族は意思決定にどのように参加しているか	157
CQ 9 鎮静は生命予後を短くするのか	159
CQ 10 鎮静に関して家族はどのような体験をしているのか	161

● 研究方法・文献

1. CQ1～9の研究方法	164
① 文献の同定	164
② データの抽出	165
③ 分析	165
2. CQ10の文献レビューの方法	167
① 文献の同定	167
② 文献の分析	168

IX章 開発過程

1 開発過程	174
1. 概要	174
2. 作成方法	174

2 開発者と利益相反	176	資料 4	
3 今後の検討点	179	ミダゾラムの調整と評価方法の具体例	186
1. 手引き全体の構成と対象について	179	資料 5	
2. 鎮静の妥当性の評価について	179	日本語版 Critical-Care Pain Observation Tool (CPOT-J)	192
3. 患者や家族の意思について	179	資料 6-1	
4. 苦痛の評価について	180	終末期せん妄による不穏/興奮に対する内服不可能時の対応例	193
5. 具体的な治療法・ケアについて	180	資料 6-2	
6. 鎮静の定義・概念について	180	終末期せん妄による不穏/興奮に対する内服不可能時の対応例	194
7. 倫理的検討, 法的検討について	180	資料 6-3	
8. その他	181	終末期せん妄による不穏/興奮に対する内服不可能時の処方例	194
		資料 7-1	
		終末期呼吸困難に対してオピオイド持続注射開始後, 呼吸困難と意識のバランスを取りながら薬物療法を調整する方法	195
		資料 7-2	
		オピオイド持続注射開始, 調節の具体例	196
		索引	197

資料

資料 1

Integrated Palliative care Outcome Scale (IPOS)
スタッフ版 184

資料 2

Support Team Assessment Schedule 日本語版
(STAS-J) 症状版 184

資料 3

緩和ケア用 Richmond Agitation-Sedation Scale
(RASS) 日本語版 185